

小網代の森 研修に参加して

株式会社 オカムラ

人事総務課 末吉 信貴

お天気が少し心配な 9 月 30 日の朝、参加者 15 名は、「小網代の森インフォメーションスペース」に集合し、ガイドの説明のあと、小網代の森に向かった。参加者は、全長約 1.6 キロの源流から河口までの散策路を歩き、自然の音に耳を澄まし、景観に目を奪われながら充実の時間を過ごしました。

午後は、海南神社を経て、三浦市一般廃棄物最終処分場を見学しました。

「ガイドは小網代の森の生き字引」

今回のガイド役は運よく、岸由二先生（NPO 法人小網代野外活動調整会議代表者）が担当で、小網代の森の生き字引であり、数十年かけて小網代の森を整備し守ってこられた、実体験を交えながらのお話は、大変貴重な研修の機会となりました。



《 小網代の森の説明 》



《 歩き始めの森林地帯 》

「小網代の森は自然の宝庫」

ボードウオークの上を歩きながら、蝶々、鳥の鳴き声、蜘蛛、アカテガニと色々な生き物に出会いました。

そして、浦の川上流部では、ジャングルの様なアスカイノデの群生地、ハンノキ林、中流部では、横たわるジャヤナギ（蛇柳）の湿原地帯など多様な自然状態を観察することが出来て、“生きている森”を実感しました。

えのきテラスで記念撮影をして、小網代の森を後にしました。



《 湿地帯の風景 》



《 河口から小網代湾を臨む 》



《 えのきテラスで集合写真 》

三浦市一般廃棄物最終処分場

午後からは、三浦市一般廃棄物最終処分場を見学しました。この処分場は、三浦市と横須賀市のごみ共同処理事業の一環として、令和2年3月から運営されており、76.0m×47.5m×15.1m (3,990.56m²) とかなりの大きさの構造物です。

この建物は、クローズド型と呼ばれ、埋め立て地は閉鎖空間となっており、廃棄物の飛散・流出や臭気の拡散を防止する効果があります。昨今のごみ排出量の減少傾向から、「もう暫くは安心かな？」とこの施設を見てそう思いました。